

北九州市保健環境研究所報

第 46 号
(平成30年度)

北九州市保健環境研究所



北九州市民憲章

わたしたちのまち北九州市は、美しい自然に恵まれ、ながい歴史とたくましい産業をうけついできました。

わたしたち北九州市民は、このまちを愛し、よりいっそうの市民参加によるまちづくりをめざしています。

このふるさとに、実りある未来を築くため、わたしたちは、みんなで守る約束を定めます。

緑を豊かに 清潔で美しいまちにします

きまりを守り 安全なまちにします

人を大切にし ふれあいの輪をひろげます

元気で働き 明るい家庭をつくれます

学ぶ楽しさを深め 文化のかおるまちにします

はじめに

保健環境研究所報第46号の発刊に際しまして、ご挨拶を申し上げます。

平成から令和へと元号が変わり、私自身もこの4月から当研究所の所長を拝命することとなり、職員一同とともに新たな気持ちで業務に取り組んでいます。

当研究所は、科学的かつ技術的中核施設のひとつとして、保健福祉局、環境局などの関係部署との連携の下に調査研究、試験検査、研修指導などを行っています。

特に保健衛生（感染症、食品衛生など）及び環境保全（大気、水質など）の分野においては、行政指導の根拠となる重要な検査を実施しており、種々の検査の実施にあたっては、一連の検査プロセスの妥当性を点検し、検査結果の質を保証することが求められます。そのために検査の信頼性に対する基準であるGLP（Good Laboratory Practice）の考えを基本とした「内部及び外部の精度管理による信頼性確保の取り組み」を行っています。

公衆衛生上の様々な問題は、時代とともに表情を変えて私たちの生活を脅かしています。

麻疹は現在、日本では排除状態にあるとWHO西太平洋地域麻疹排除認証委員会（RVC）の認定を受けていますが、全国各地で地域的な小流行が起っています。

風しんは青壮年男子を中心に平成30年から全国で患者発生が増加が続いています。

薬剤耐性菌（AMR）については2050年には全世界でそのための死亡者が年間1000万人に達するとの予測もあり、医療関係者の間で対策の取り組みが開始されているところですが、依然としてカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）、多剤耐性アシネトバクター（MDRA）などによる院内感染が全国各地で報告されています。

食品衛生状態がかなり改善した今日でもO157などの腸管出血性大腸菌、カンピロバクターなどによる食中毒事件が発生しています。

また、PM_{2.5}（微小粒子状物質）、光化学オキシダントによる大気汚染などについても度々、報道がなされています。

当研究所は、昭和49年にこの戸畑区新池の地に新築移転し、平成31年3月には劣化の激しかった庁舎外壁の改修工事が完了して、移転後45年を迎えました。時代とともに名称も衛生研究所、環境衛生研究所、環境科学研究所と変遷し、平成29年4月から現在の保健環境研究所となりましたが、保健衛生及び環境保全の分野で求められる役割は今後とも変わりはありません。

未知の課題に直面して、国立感染症研究所や国立環境研究所、また全国の地方衛生研究所・地方環境研究所とも協働して問題解決に取り組む場合も想定され、検査技術の維持・向上のための人材育成と最新の検査機器・設備を整備して、その一員として十分に能力が発揮できるように努力していく必要があります。

今後も、皆様方のより一層のご理解とご支援を賜りたく、よろしくごお願い申し上げます。

令和元年11月

北九州市保健環境研究所
所長 吉本 勝彦

目 次

第1	沿革・組織及び概要	
1	沿 革	1
2	組 織	1
3	検査件数	2
4	予算・決算概要	3
5	分析機器整備状況	4
6	庁舎配置図	5
第2	業務内容	
1	試験検査等	
	環境部門	6
	衛生化学部門	11
	微生物部門	17
2	調査研究	23
3	そ の 他	27
第3	講演発表	
	・PM _{2.5} 中の化学物質の一斉分析について	29
	・有害大気汚染物質のモニタリング結果	31
	・PM _{2.5} 中の化学物質の一斉分析について	35
	・巻貝食中毒！ テトラミン迅速試験法の開発	38
	・果実中防かび剤8種の試験法の開発	42
	・北九州市内におけるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症 の発生状況	44
	・カナマイシン感受性ウエルシュ菌による集団食中毒発生事例	45
	・北九州市における風疹の流行について(中間報告)	47